

トルコ金融政策（2019年7月）

4.25%ポイントの大幅利下げ

2019年7月26日

新総裁体制下の大幅利下げに市場は冷静な反応

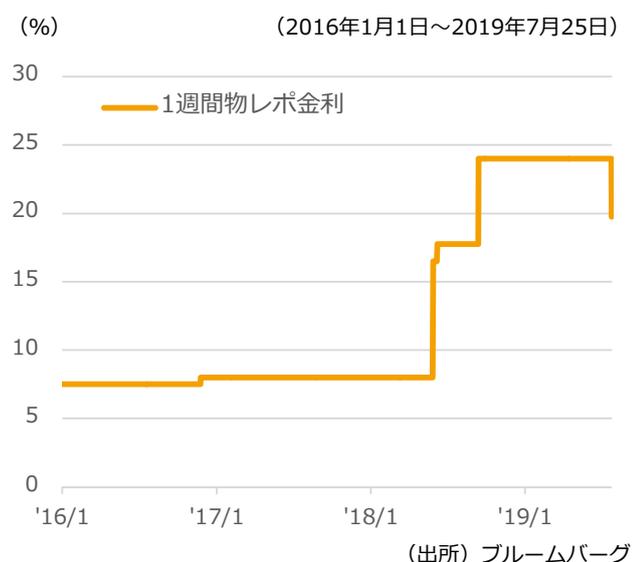
トルコ中央銀行は7月25日（現地、以下同様）、政策金利（1週間物レポ金利）を24.00%から19.75%に、4.25%ポイント引き下げることと決定しました。市場予想の2.50%ポイントより大幅な引き下げとなり、トルコ・リラは一時上下に振れましたが、その後は値を戻すなど市場は冷静な反応を示しています。

エルドアン大統領は以前から金利が高止まりしているとして中央銀行を批判していましたが、7月6日、突如チェティンカヤ中央銀行総裁を更迭しました。後任には副総裁であったウイサル氏が就任しましたが、就任会見では既に金融政策の転換について示唆していました。また、トルコのインフレ率が鈍化しており、トルコ・リラ相場も安定的に推移していたことから、利下げの環境が整っていました。

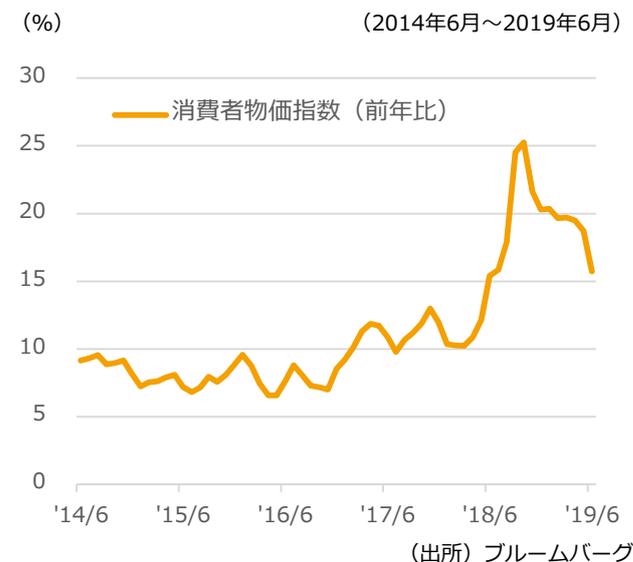
今回の会合で実際に利下げに踏み切ったことは、金利の引き下げを望む大統領の意向に沿った形で、中央銀行の独立性への懸念が再び高まりそうです。一方で、大幅な利下げを行ったことにより、短期的には大統領の不満を和らげると考えられます。今後はインフレ率や為替の動向を見ながら、中央銀行が追加利下げを行うかどうか注目されます。

目先は、対米関係が注目されます。ロシアからミサイル防衛システムを購入した件について、米国は依然として制裁を行うか否かの正式な判断を下しておらず、引き続き不透明感がくすぶっています。一方、当局の各種政策によってトルコ・リラ売りのコストが高いことから、投資家が積極的にトルコ・リラを売りにくい環境にあるため、トルコ・リラは安定的に推移すると考えています。

政策金利の推移



インフレ率の推移



当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。